
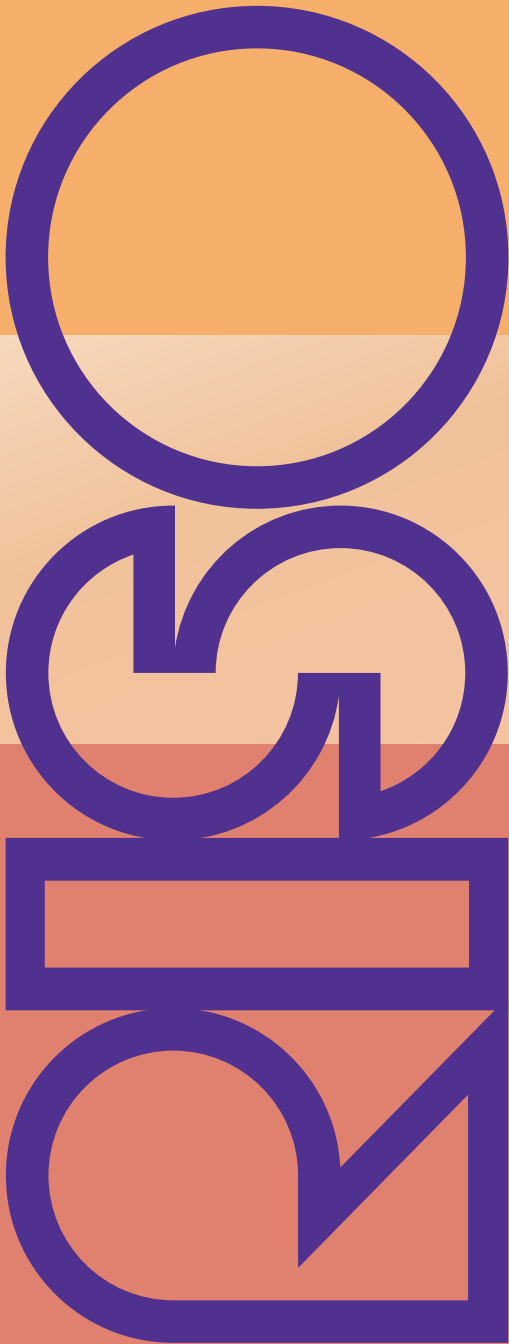


平成20年3月期 中間報告書

平成19年4月1日～平成19年9月30日

 理想科学工業株式会社

RISO
INTERIM
REPORT



株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに平成20年3月期中間報告書をお届けします。

当社グループは、今期より新たな中期経営計画「Riso Vision 10」(P2参照)を策定し、新規顧客の獲得を重要課題として取り組み、更なる成長を目指しております。

このような活動計画のもと、当中間期の業績は、孔版事業では、国内や先進国向けに同時2色印刷機『リソグラフMZシリーズ』の拡販に努め、中国など新興国向けに低価格機種『RISO CZシリーズ』を積極的に展開し本体販売台数を伸ばしました。しかしながら国内および海外の先進国では消耗品販売が伸び悩み、売上高は前年同期を下回りました。インクジェット事業では、国内や欧米を中心にオルフィス本体の設置が進み消耗品販売の成長により売上を伸ばしました。この結果、為替の好影響もあり、当中間期は増収増益となりました。

今後も皆様のご期待に添えますよう新技術領域にチャレンジし、魅力ある製品・サービスの提供に努力してまいります。

なお今期の配当金につきましては、1株当たり40円とさせていただきます。

株主の皆様には今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



平成19年12月

代表取締役社長
羽山 明

第三次中期経営計画 Riso Vision 10

当社グループでは、インクジェット事業・孔版事業において新規顧客の獲得を重要課題として取り組み、更なる成長を目指します。平成20年3月期から平成22年(2010年)3月期までの第三次中期経営計画は以下の通りです。

基本方針

1. インクジェット事業におけるハード設置の更なる加速
2. 孔版事業における新規顧客獲得
3. 新たな柱となる事業の創出
4. 事業環境変化を先取りした開発・技術・製造投資の実行
5. リーダー人材を創出する企業風土の醸成
6. CSR活動推進による、企業価値の向上

平成20年3月期 重点課題

1. 直販力の強化及び的確な販売店支援の実施
2. 海外販売子会社の活性化と体質転換
3. 新規事業基盤の構築
4. 品質・安全面に重点をおいた生産活動
5. 内部統制システム構築の推進



・連結売上高 1,000億円 ・連結売上高営業利益率 10% の達成を目指します

高速デジタル印刷機 『リソグラフ RZシリーズ』の新機種を発売

当社は本年8月、高速デジタル印刷機『リソグラフRZシリーズ』の新機種『RISOGRAPH RZ670 / RZ630』を発売しました。同機種は『リソグラフRZシリーズ』の特長である、操作性・高速性を継承し、さらに広くお客様のプリント環境に対応するための機能の充実とセキュリティの強化を図っています。

印刷機本体には原稿データを直接出力できるようUSBメモリ*のスロット(接続口)を新たに設けました。これにより、学校や企業の印刷室などITネットワークが構築されていない環境や、パソコンと直接接続できない場所にリソグラフが設置される場合でも直接データの出力ができるため、本体性能を最大限に生かしたより鮮明な印刷が可能となりました。

セキュリティ面では、使用者を認証する新機能として、パスワードなどで認証された使用者のみが使用できる「本体認証」と、出力ファイルごとに認証設定を行う「認証プリント」機能を搭載。出力した重要書類の取り間違い、置き忘れなどによる情報の流出を防ぎます。

*パソコンなどに直接接続してデータを読み書きする記録媒体の一種。フロッピーディスクに代わる手軽な記録メディアとして注目されています。



プリント機能の充実と
セキュリティを強化した
高速デジタル印刷機
『RISOGRAPH RZ670』

高速カラープリンター オルフィスの オプションを充実

当社は、高速カラープリンター オルフィスをお客様により快適にお使いいただくために、高速・多機能コントローラ『ComuColorExpress IS700C』と『ICカード認証キット』をそれぞれ5月と8月に発売し、オプションの充実を図りました。

『ComuColorExpress IS700C』は、『オルフィス HC5500』の性能を最大限に引き出す専用コントローラの最上位機種です。データ処理の高速化と大幅な機能強化を図り、セミナー・会議資料や宛名印刷入りのダイレクトメールなどのカラープリントをスピーディーに処理します。

『ICカード認証キット』は、オルフィスに非接触型のICカードによる認証システムを導入するための基本キットです。情報漏えい防止対策として需要が高まりつつある認証システムを、導入コストを極力抑え手軽に導入可能にしました。



高速・多機能コントローラ
『ComuColorExpress IS700C』



オルフィスでの
ICカード認証のイメージ
(ICカードは別売)

パーソナルハンディースキャナ 『scamo (スカモ)』発売

当社と理想ベックは、新製品『scamo (スカモ)』と『scamo beam (スカモビーム)』の2機種を開発。本年5月当社より発売しました。同製品は、総合専門店、量販店などでの販売のほか、自社ウェブサイトを通じた販売も行っています。

スカモは撮りたいものの上に本体をのせ、上からファインダーをのぞきながらスキャンができる新タイプのハンディースキャナです。読み取った画像データは簡単な操作で手書きの文字などと合成ができ、オリジナルのポストカードをパソコンを使わずに手軽に作成することができます。また、画像データを赤外線*によって携帯電話へ送信し、待ち受け画面や携帯電話用の画像付きDMのコンテンツづくりに応用可能です。

また、同製品は10月、(財)日本産業デザイン振興会が主催する「2007年度グッドデザイン賞(Gマーク)」を受賞しました。

当社はスカモを通じて、多くの人を楽しめるデジタルイメージによる新しいコミュニケーションを提案していきます。

*赤外線送信機能は『スカモビーム』のみ

撮りたいものを、
見ながらスキャンできる
『scamo beam
(スカモビーム)』(左)と
『scamo(スカモ)』(右)
「2007年度グッドデザ
イン賞(Gマーク)」受賞



インドに子会社を設立・営業開始 市場開拓と販売チャネルの強化を図る

当社は昨年12月、インドに子会社RISO INDIA PRIVATE LIMITEDを設立、本年4月より営業を開始しました。同社は、インド経済の急激な成長に伴う市場の変化に迅速に対応するための現地拠点。首都ニューデリーの中心部にオフィスを構えています。

BRICsの1国であるインドでは、経済発展に伴い印刷機の需要が増加傾向にあります。当社は平成9年にインドに駐在員事務所を設置し対応してきましたが、増加する学校や官公庁向けのデジタル印刷機のニーズに応えるため、子会社の設立に至ったものです。

RISO INDIA PRIVATE LIMITEDは、『RISO CZ180』をはじめとしたデジタル印刷機の販売を中心に、地域に密着した営業体制によりインド国内で本格的な市場開拓と販売チャネルの強化を図っています。



地域密着の営業体制で市場開拓と販売チャネルの強化を図る
RISO INDIA PRIVATE LIMITEDのマダン社長

経営の実績－当中間期の概況

当社グループは、インクジェット事業(オルフィス)と孔版事業(リソグラフ)において新規顧客の獲得を重要課題として、更なる成長を目指しております。

第三次中期経営計画の初年度にあたる今期は、「直販力の強化及び的確な販売店支援の実施」「海外販売子会社の活性化と体質転換」「新規事業基盤の構築」「品質・安全面に重点をおいた生産活動」「内部統制システム構築の推進」の5項目を重点課題に掲げて運営しております。

これらの課題のうち「直販力の強化及び的確な販売店支援の実施」については、直販の営業力を販売店に伝播する体制の構築を行いました。特にオルフィス販売につきましては、国内では本体の設置が進み消耗品販売の基盤を築きつつあります。また、「海外販売子会社の活性化と体質転換」については、米国子会社の現地経営陣の刷新を図り、人件費・経費の見直しを実施しました。

以上のような活動の結果、売上高は為替の好影響もあり、435億3千5百万円(前年同期比2.2%増)、営業利益は22億7千9百万円(同0.0%減)、経常利益は23億5千8百万円(同4.8%増)、中間純利益は13億2千1百万円(同2.2%増)となりました。

当中間期の販売実績を地域別に見ますと、国内では、オルフィス販売は消耗品が順調に伸びましたが、リソグラフ販売は前年を下回り、売上が減少しました。この結果、売上高は不動産その他事業も含め221億1千8百万円(同1.5%減)となりました。

米州では、オルフィス販売は消耗品が順調に伸びましたが、リソグラフ販売は前年を下回り、売上が減少しました。この結果、売上高は62億1千8百万円(同7.5%減)となりました。

欧州では、リソグラフ販売は前年を下回りましたが、オルフィス販売は先進国を中心に順調に売上を伸ばしました。この結果、売上高は為替の好影響もあり98億2千1百万円(同14.4%増)となりました。

アジアでは、リソグラフ本体の販売が順調に推移しました。この結果、売上高は53億7千6百万円(同11.3%増)となりました。

通期の見通し

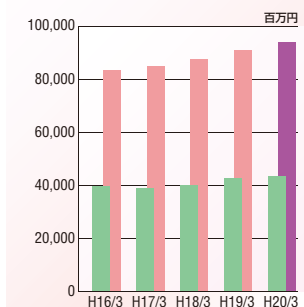
当社グループは、第三次中期経営計画「Riso Vision 10」(P2参照)で掲げた重点課題に全力で取り組む所存です。オルフィス関係は、営業体制の効率化を推進し拡販を図ってまいります。リソグラフ関係は、先進国では同時2色印刷機等の高付加価値機の販売に注力し、新興国市場では「RISO CZシリーズ」等の低価格機を中心とした販売により収益力の向上に努め、企業体質の強化を図ってまいります。

通期の業績見通しは、売上高940億円(前期比3.5%増)、営業利益65億2千万円(同21.2%増)、経常利益61億7千万円(同20.1%増)、当期純利益38億4千万円(同29.0%増)を予定しております。

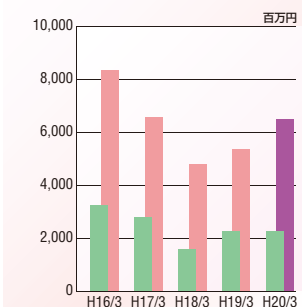
なお、通期業績見通しにおける為替レートは、米ドル117円、ユーロ162円を前提としております。

業績ハイライト(連結)

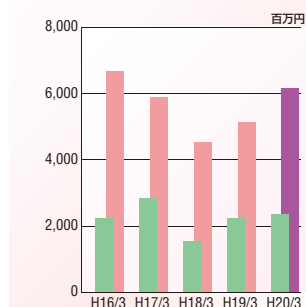
売上高



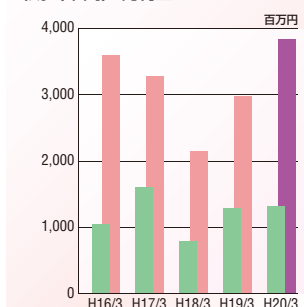
営業利益



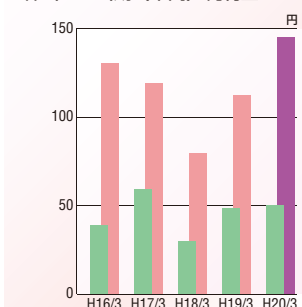
経常利益



当期(中間)純利益



1株当たり当期(中間)純利益



凡例:

■ 中間期 ■ 通期 ■ 通期見込

		平成16年3月期		平成17年3月期		平成18年3月期		平成19年3月期		平成20年3月期	
		中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期見込
売上高	(百万円)	39,617	83,666	38,932	85,161	40,040	87,601	42,601	90,863	43,535	94,000
営業利益	(百万円)	3,279	8,353	2,792	6,574	1,606	4,812	2,280	5,379	2,279	6,520
経常利益	(百万円)	2,254	6,680	2,855	5,883	1,556	4,552	2,250	5,139	2,358	6,170
当期(中間)純利益	(百万円)	1,046	3,604	1,609	3,280	792	2,154	1,292	2,977	1,321	3,840
1株当たり当期(中間)純利益	(円)	38.61	130.64	59.37	119.29	29.74	79.76	48.64	112.12	49.93	145.09

(注)平成17年11月18日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割しております。

当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の「1株当たり当期(中間)純利益」の推移を表記しております。

財務諸表の概要 (連結)

(注) 記載金額は表示金額未満を切り捨てて表示しております。
この財務諸表は、主要な項目を表示しております。

■貸借対照表

(資産の部)

(単位：百万円)

科目	前期	当中間期
	平成19年3月31日	平成19年9月30日
流動資産	73,619	67,650
現金及び預金	29,572	26,819
受取手形及び売掛金	17,570	14,588
有価証券	8,040	6,613
たな卸資産	13,914	15,014
その他	4,760	4,870
貸倒引当金	△ 238	△255
固定資産	47,430	49,653
有形固定資産	31,296	31,118
建物及び構築物	8,022	7,883
機械装置及び運搬具	1,982	1,924
土地	14,873	14,873
その他	6,418	6,437
無形固定資産	2,459	2,371
ソフトウェア	1,774	1,720
その他	685	650
投資その他の資産	13,674	16,162
投資有価証券	7,266	9,400
その他	7,215	7,524
貸倒引当金	△ 807	△762
資産合計	121,049	117,303

(注) 当中間期の有形固定資産の減価償却累計額 40,926 百万円

POINT 1

受取手形及び売掛金、支払手形及び買掛金、その他(流動負債)
当中間期末日は銀行休業日のため、未決済分が含まれています。

POINT 2

有価証券・投資有価証券
有価証券の売却、投資有価証券の購入を実施しました。

(負債の部)

(単位：百万円)

科目	前期	当中間期
	平成19年3月31日	平成19年9月30日
流動負債	31,492	28,910
支払手形及び買掛金	15,444	14,825
短期借入金	5,805	5,125
一年内返済予定の長期借入金	9	8
その他	10,232	8,951
固定負債	18,202	17,076
転換社債	14,091	13,286
長期借入金	104	112
その他	4,007	3,678
負債合計	49,694	45,987

(純資産の部)

(単位：百万円)

科目	前期	当中間期
	平成19年3月31日	平成19年9月30日
株主資本	68,557	68,820
資本金	14,114	14,114
資本剰余金	14,779	14,779
利益剰余金	42,532	42,794
自己株式	△ 2,868	△2,869
評価・換算差額等	2,630	2,315
その他有価証券評価差額金	1,706	1,198
為替換算調整勘定	923	1,117
少数株主持分	166	179
純資産合計	71,354	71,316
負債、純資産合計	121,049	117,303

POINT 3

転換社債
買入消却を実施しました。

■損益計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期	当中間期
	平成18年4月1日～ 平成18年9月30日	平成19年4月1日～ 平成19年9月30日
売上高	42,601	43,535
売上原価	20,635	20,954
売上総利益	21,966	22,580
販売費及び一般管理費	19,685	20,300
営業利益	2,280	2,279
営業外収益	354	448
営業外費用	383	369
経常利益	2,250	2,358
特別利益	—	—
特別損失	—	—
税金等調整前中間純利益	2,250	2,358
法人税、住民税及び事業税	667	1,046
法人税等調整額	285	△22
少数株主利益	5	12
中間純利益	1,292	1,321

POINT 4

売上高

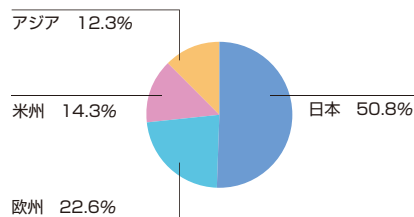
前年同期比9億3千4百万円の増収となりました。為替の影響は約15億円のプラスとなりました。

■キャッシュ・フロー計算書

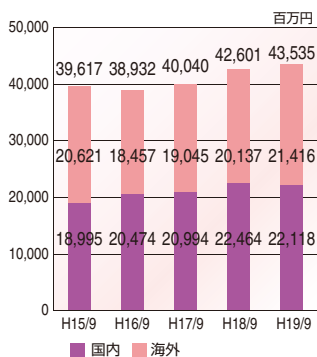
(単位：百万円)

科目	前中間期	当中間期
	平成18年4月1日～ 平成18年9月30日	平成19年4月1日～ 平成19年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,549	2,606
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,608	△2,092
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,843	△2,498
現金及び現金同等物に係る換算差額	78	76
現金及び現金同等物の増減額	2,176	△1,907
現金及び現金同等物の期首残高	32,697	32,667
現金及び現金同等物の中間期末残高	34,874	30,759

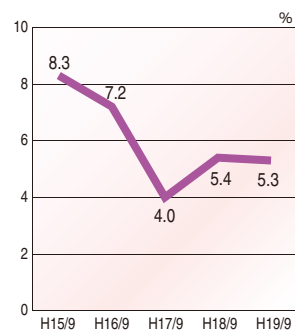
地域別売上高比率(当中間期)



国内・海外売上高(中間期)



売上高営業利益率(中間期)



財務諸表の概要 (単独)

(注) 記載金額は表示金額未満を切り捨てて表示しております。
この財務諸表は、主要な項目を表示しております。

■貸借対照表

(資産の部) (単位：百万円)

科目	前期	当中間期
	平成19年3月31日	平成19年9月30日
流動資産	56,318	51,185
現金及び預金	25,354	22,737
受取手形	1,742	1,399
売掛金	13,557	11,990
有価証券	7,292	5,393
たな卸資産	6,236	7,083
その他	2,269	2,910
貸倒引当金	△136	△329
固定資産	56,387	57,116
有形固定資産	29,310	29,100
建物及び構築物	7,933	7,790
土地	14,873	14,873
その他	6,504	6,436
無形固定資産	2,023	1,973
投資その他の資産	25,052	26,041
投資有価証券	7,266	9,400
関係会社株式	10,203	7,564
その他	10,567	9,748
貸倒引当金	△58	△55
投資損失引当金	△2,926	△616
資産合計	112,705	108,301

(負債の部) (単位：百万円)

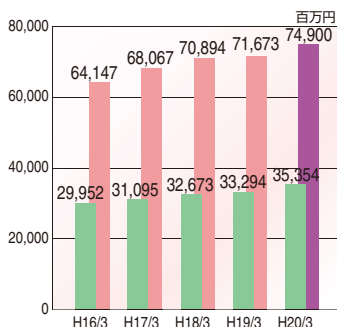
科目	前期	当中間期
	平成19年3月31日	平成19年9月30日
流動負債	22,708	20,808
支払手形	2,860	2,904
買掛金	12,672	11,777
一年内返済予定の長期借入金	5	4
その他	7,169	6,122
固定負債	18,067	16,831
転換社債	14,091	13,286
長期借入金	96	97
事業損失引当金	438	216
その他	3,442	3,231
負債合計	40,776	37,639

(純資産の部) (単位：百万円)

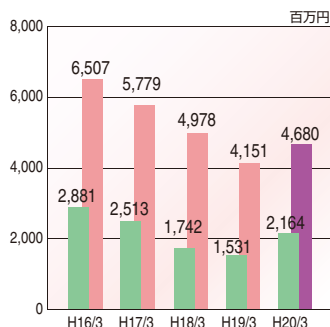
科目	前期	当中間期
	平成19年3月31日	平成19年9月30日
株主資本	70,222	69,463
資本金	14,114	14,114
資本剰余金	14,779	14,779
利益剰余金	44,196	43,438
自己株式	△2,868	△2,869
評価・換算差額等	1,706	1,198
その他有価証券評価差額金	1,706	1,198
純資産合計	71,929	70,661
負債、純資産合計	112,705	108,301

(注) 当中間期の有形固定資産の減価償却累計額 36,677百万円

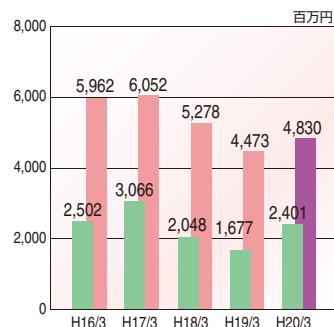
売上高



営業利益



経常利益



■ 損益計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期	当中間期
	平成18年4月1日～ 平成18年9月30日	平成19年4月1日～ 平成19年9月30日
売上高	33,294	35,354
売上原価	18,549	19,837
売上総利益	14,745	15,517
販売費及び一般管理費	13,213	13,352
営業利益	1,531	2,164
営業外収益	325	481
営業外費用	179	245
経常利益	1,677	2,401
特別利益	628	141
特別損失	224	441
税引前中間純利益	2,082	2,101
法人税、住民税及び事業税	531	781
法人税等調整額	62	1,020
中間純利益	1,488	299

POINT 1

特別利益、特別損失

当中間期の特別利益、特別損失の内容は次のとおりです。

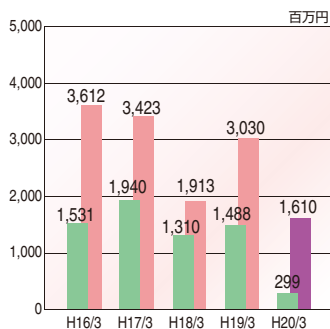
- ・特別利益
 - 投資損失引当金戻入益 112百万円
 - 事業損失引当金戻入益 29百万円
- ・特別損失
 - 子会社株式評価損 409百万円
 - 投資損失引当金繰入額 32百万円

POINT 2

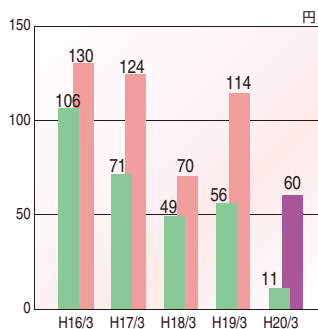
法人税等調整額

子会社株式の減損処理により繰延税金資産を取り崩しました。

当期（中間）純利益



1株当たり当期（中間）純利益



(注)平成17年11月18日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割しております。
当該株式分割に伴う影響を加味し、選及修正を行った場合の「1株当たり当期（中間）純利益」の推移を表記しております。

凡例: ■ 中間期
■ 通期
■ 通期見込

国内

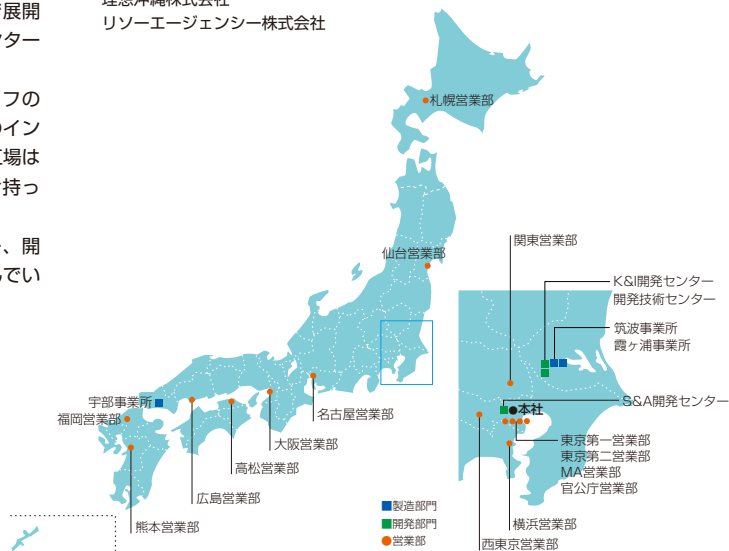
当社の販売ネットワークは15営業部48支店及び販売子会社を中心に構成されています。また、当社製品を安心してご利用いただくために、技術サポートや消耗品の供給体制も全国規模で展開しております。営業・技術スタッフの育成は、リソー教育センターを中心に全国で行われています。

国内の製造拠点は3カ所あります。筑波工場はリソグラフのハードウェアを生産しています。霞ヶ浦工場はリソグラフのインク・マスターとオルフィスのインクを生産しています。宇部工場はリソグラフのインク・マスターのうち量産品種の生産を受け持っています。

当社の開発部門はS&A開発センターとK&I開発センター、開発技術センターがあり、次代のRISO製品の開発に取り組んでいます。

◆国内の主な子会社

- 株式会社理想ベック
- 理想沖繩株式会社
- リソーエージェンシー株式会社



本社



K&I開発センター



開発技術センター



霞ヶ浦事業所



筑波事業所



宇部事業所

海外

当社は18の海外子会社を中心に、RISO HC5500、リングラフなどの販売や、技術サポートや消耗品の供給を行っています。また、中国・広東省の珠海工場では、リングラフハードウェアの生産を行っています。RISOグループ3,000名以上のスタッフが、さまざまな国の人たちとのコミュニケーションを大切に、多くのお客様をサポートしています。



●海外の主な子会社

RISO, INC.
 RISO CANADA, INC.
 RISO DE MEXICO, S.A. de C.V.
 RISO EUROPE LTD.
 RISO (U.K.) LTD.
 RISO (Deutschland) GmbH
 RISO POLAND Sp. Zo.o.
 RISO FRANCE S.A.
 RISO IBERICA, S.A.
 RISOGRAPH ITALIA, S.p.A.
 RISO AFRICA (PTY) LTD.
 RISO HONG KONG LTD.
 RISO (Thailand) LTD.
 理想(上海) 国際貿易有限公司
 珠海理想科学工業有限公司
 RISO KOREA LTD.
 理想工業(香港) 有限公司
 RISO INDIA PRIVATE LIMITED



RISO, INC.
(アメリカ・ボストン)



RISO (Deutschland) GmbH
(ドイツ・ハンブルグ)



RISO (Thailand) LTD.
(タイ・バンコク)



RISO EUROPE LTD.
(イギリス・ロンドン)



RISO FRANCE S.A.
(フランス・リヨン)



珠海理想科学工業有限公司
珠海工場(中国・広東省)

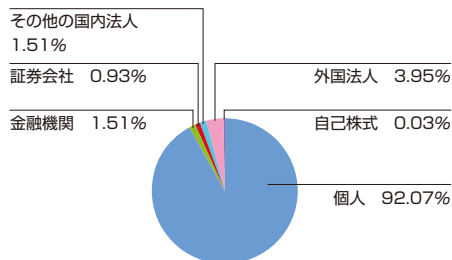
株式の状況 (平成19年9月30日現在)

■発行可能株式総数 67,840,000株
(前期末比 増減なし)

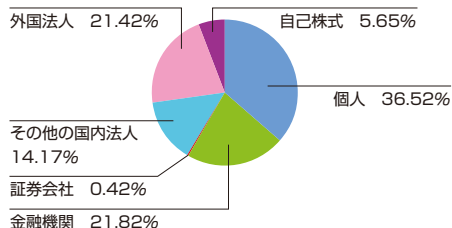
■発行済株式の総数 28,053,166株
(前期末比 増減なし)

■株主数 2,910名
(前期末比87名減少)

■株主数比率



■株式数比率



■大株主一覧 (上位10人)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社理想社	2,470	8.80
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウントアメリカンクライアント	1,913	6.81
理想科学工業株式会社	1,587	5.65
羽山 昇	1,347	4.80
財団法人理想教育財団	1,330	4.74
羽山 明	850	3.03
みずほ信託退職給付信託東京都民銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	783	2.79
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リュウエストタックスエグゼクティブ パンションファンズ	771	2.74
日興シティ信託銀行株式会社 (信託口)	765	2.72
理想科学工業従業員持株会	756	2.69

(注) 1. みずほ信託退職給付信託東京都民銀行口再信託受託者資産管理サービス信託の持株数783千株は、株式会社東京都民銀行が保有する当社株式を退職給付信託に拠出したものです。

2. シルチェスター インターナショナル インベスターズ リミテッドから、平成17年9月30日付で大量保有報告書(変更報告書)の写しの送付を受けましたが、当社として当中間期末日現在における所有株式数の確認ができないため上記大株主一覧には含めておりません。なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりです。

株主名	持株数(千株)
シルチェスター インターナショナル インベスターズ リミテッド	1,398

(上記の持株数は、株式分割前の株数です)

3. スパークス・アセット・マネジメント株式会社から、平成19年1月15日付で大量保有報告書の写しの送付を受けましたが、当社として当中間期末日現在における所有株式数の確認ができないため上記大株主一覧には含めておりません。なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりです。

株主名	持株数(千株)
スパークス・アセット・マネジメント株式会社	1,670

4. アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社から、平成19年5月18日付で大量保有報告書の写しの送付を受けましたが、当社として当中間期末日現在における所有株式数の確認ができないため上記大株主一覧には含めておりません。なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりです。

株主名	持株数(千株)
アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社	1,412

- 商号 理想科学工業株式会社
- 本社 〒108-8385 東京都港区芝五丁目34番7号
- 創業 昭和21年(1946年)9月2日
- 会社設立 昭和30年(1955年)1月25日
- 資本金 14,114,985,384円
- 従業員数 1,621名
- 連結子会社 24社(国内5社 海外19社)
- 役員
代表取締役社長 羽山 明
専務取締役 河合 伸雄
常務取締役 高橋 靖宏
常務取締役 国谷多可史
取締役 阿部 和男
取締役 五十嵐秀隆
取締役 石橋 英悟
取締役 岡田 良隆
取締役 遠藤喜八郎
取締役 高橋 康信
常勤監査役 波田 祥吾
常勤監査役 谷口 隆
監査役 鈴木 瀧夫*1
監査役 飯塚 良成*1

(注) *1 会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

■ お知らせ ■

● 株券電子化について

株券の取引等が安全かつ迅速に行われることを目的に、上場会社の株券は「株券電子化」(株券ペーパーレス化)に関する法律により電子化されることになりました。平成21年6月までの政令で定める一定の日に実施されますが、同年1月実施を目標として実務的な準備が進められています。つきましては、株券電子化制度への移行に際し、以下の点にご留意いただくようお願いいたします。

- (1) 株券を自宅や貸金庫等、ご本人で管理する場合、株券がご本人の名義になっていませんと株券電子化実施後は株主の権利を失うおそれがありますので、必ず名義書換を行ってください。
- (2) 株券を証券会社を通じて証券保管振替機構に預けている場合は、株券電子化にあたり、何も手続きする必要はありません。株主としての権利は自動的に確保され、これまでと同様に自由な売買が可能です。

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。

● お問い合わせ先

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

フリーダイヤル ☎ 0120-87-2031 (24時間受付:自動音声案内)
ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

◆ 今後の見通しに関する注意事項

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

■ 株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日
剰余金の配当受領株主確定日	そのほか必要があるときには、あらかじめ公告する一定の日 期末配当 3月31日 中間配当を行う場合 9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同事務取扱所	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 証券代行事務センター(〒168-0063) 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
銘柄コード	6413
名義書換手数料	無料
新株券交付手数料	新株券1枚につき印紙税相当額(ただし、満欄による場合は無料)
公告方法	電子公告とします。 公告掲載URLは次のとおりです。 http://www.riso.co.jp/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による 公告が出来ない場合は、日本経済新聞に掲載します。
理想科学株主様窓口	理想科学工業株式会社 総務部 〒108-8385 東京都港区芝五丁目34番7号 田町センタービル 電話 03(5441)6611

■ 株主インフォメーション

支払通知書の期間が過ぎてしまった場合

お受け取り期間を経過した郵便振替支払通知書(以下、支払通知書)につきましては、郵便局でのお取り扱いができなくなります。しかし、配当金の支払開始の日から3年以内であれば、当社の株主名簿管理人である中央三井信託銀行の本店及び全国各支店においてお取り扱いいたしますので、支払通知書をご持参またはご郵送ください。なお、ご郵送の場合には、支払通知書の裏面にお支払い方法をご指定いただき、お届出印をご押印のうえ右記(株主名簿管理人事務取扱所)までご送付ください。

支払通知書を紛失してしまった場合

支払通知書を紛失されても、支払開始の日から3年以内であれば、お支払い状況を確認のうえ、配当金をお支払いすることができます。また、配当金をご指定の銀行口座へ直接お振込みする制度もご用意しております。詳細は、下記までご確認ください。

■ ご連絡・お問い合わせ先

当社株主名簿管理人事務取扱所
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
(証券代行事務センター)
☎ 0120-78-2031(フリーダイヤル)

インターネットで当社に関する情報がご覧いただけます。

ホームページアドレス

<http://www.riso.co.jp/>



本中間報告書は、環境にやさしい大豆インキと、FSC認証紙を使用しております。

理想科学工業株式会社

本社 / 〒108-8385 東京都港区芝五丁目34番7号 田町センタービル